



税金の浪費、政治資金の不正支出疑惑に都民の怒りが爆発

舛添都知事が辞職

問われる自公の「製造者責任」 知事選は4野党・市民の枠組みで

政治資金の不正支出疑惑などで批判を受けていた舛添要一知事は15日、都議会議長に辞職願を提出、同日夜の本会議で辞職が認められました。日本共産党の志位和夫委員長は同日、「舛添氏を知事につぎだし、全面支援した自民・公明の『製造者責任』が問われる」として、知事選では4野党・市民の枠組みで候補者擁立にのぞむ考えを明らかにしました。



舛添知事の疑惑を追及する、そねはじめ都議 =13日、都議会総務委

知事追いつめた、そね都議の追及

舛添知事の一連の疑惑は、日本共産党都議団が4月7日、高額海外出張の実態を告発したことが発端で明らかになりました。その後、公用車の私的使用問題、政治資金の不正支出疑惑が次々と発覚しました。

党都議団は都議会で具体的事実を追及し、辞職を求めるとともに、6月13日には不信任決議案の提出を表明しました。こうした中で、他の野党会派も不信任決議案を提案、自民公明を含む全会派の共同提出につながりました。

とりわけ圧巻だったのは13日に開かれた都議会総務委員会集中審議での追及でした。党都議団からは、そねはじめ議員が質問にたち、舛添氏が会社社長と面談したとするホテル三日月での家族旅行について、「誰が社長と連絡をとったのか」「フロントには迎えに行ったのか」「ルームサービスは使わなかったのか」と詳細に質問。知事は「つ



ララガーデンで訴える、のの山区議 =12日

ぶさに覚えていない」、「記憶がない」と答えてに窮しました。

さらにホテルの領収書から明細が切り取られていたことをしめし、家族旅行を「会議」としたのは虚偽記載ではないかと迫りました。

こうした共産党の追及で都民の怒りが爆発し、世論が知事を追いつめた結果の辞職となりました。

北区議会第2回定例会本会議 日本共産党北区議員団の質問

北区議会第2回定例会が開会し、初日となった10日は、区議会本会議場で各党派による代表質問と個人質問がおこなわれました。

日本共産党北区議員団からは、福島宏紀議員が代表

質問に、野口まさと議員が個人質問に立ち、区長、教育長の姿勢を質しました。

区議会定例会は、5つの常任委員会での議案審議を経て、22日に最終本会議を開き、閉会となります。



介護、子育て、住宅、生活保護制度 区民の暮らしを守る区政を

代表質問 福島 宏紀 議員

福島議員はまず、区政運営においては憲法と平和、立憲主義をつらぬくよう要望。花川区長は「憲法を遵守する」と答えました。

介護施策については、電気、ガス、水道などライフラインが止められることで起きる深刻なトラブルを例示し、関係機関との協力で遮断を防ぐよう求めました。

子育てでは保育園待機児解消と保育士の確保を提起。区長は「補正予算で緊急対策を行なう」と答えました。

住宅対策では、生活保護世帯も可となったUR住宅に、生保に至らない低所得者も入居できるようにはたらかけることを求めました。

さらに、自立生活困難となった生活保護受給者を遠隔地の施設に入所させる場合は、本人の納得と合意を得ることを強く求めました。

最後に、7月末で休止とされる浮間の国際興業バス便の運行継続を求めました。

十条まちづくり計画の抜本見直しを 住民合意こそ大前提に

個人質問 野口 まさと 議員



野口議員は、西口再開発、補助73号線、補助85号線、埼京線高架化と付属街路（側道）建設など、事業計画が目白押しとなっている十条まちづくりの問題をとりあげ、計画の抜本の見直しを迫りました。

現道18mの補助85号線（区役所通り）を30mに拡幅する計画では、両側のいちよう通り商店街を軒並み立ち退かせることになる指摘。区側も店主らから「都市計画手続きで自分たちの意見が反映されるのか」「広い幅員の歩道は必要ない」などの意見が出ていることを認めました。

野口議員は、埼京線を高架化とする素案についても駅東ブロック部会などで異論が相次いでいることを紹介。85号線と埼京線高架化を一体にして都市計画決定する都市計画審議会は、「住民合意が得られるまで開くべきではない」と訴えました。